

林 尹夫

第25回

京都ミュージアムロード参加企画

立命館大学国際平和ミュージアム 第137回ミニ企画展示

# タダオ 学徒出陣 林尹夫をさがして—1943-2021

2021 2/8(月) - 3/21(日)

※緊急事態宣言発令のため当初の日程を変更して8日から開催します



「林尹夫(右)と親友」



「林尹夫日記(表紙)」

【会場】立命館大学国際平和ミュージアム 2階ミニ企画展示室

立命館大学  
国際平和ミュージアム  
Kyoto Museum for World Peace,  
Ritsumeikan University



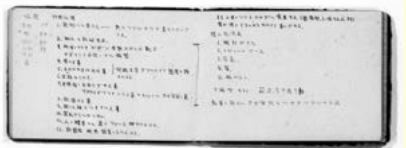
「身分証明書」※



「立命館大学学生証」※



「京都駅 1917年」高橋文雄画



「海軍予備学生時代の訓練ノート」



「核への怒り」日高浩燿画



「無題 (反戦画)」日高浩燿画



「兵役休学者名簿」※



「休学願」※

※立命館史資料センター蔵

# 学徒出陣 <sup>タダオ</sup> 林尹夫をさがして—1943-2021

1943年、15年戦争は激しさを増し、それまで徴兵が延期されていた主に文科系の大学生、高等専門学校生も軍隊へと召集されることが決定されました。世にいう「学徒出陣」です。これは、学問の徒であることを希求しながら生きる道を閉ざされた一人の大学生と、彼が残した日記をめぐる展覧会です。

林尹夫（1922-1945）は、旧京都帝国大学在学中の1943年、ほかの多くの学生とともに徴兵され海軍へ入隊しました。国際平和ミュージアムは、彼が旧制高校から大学、海軍航空隊での訓練をへて実戦へ赴くまで記し続けた日記や、家族にあてた葉書などのゆかりの資料を収蔵しています。この日記からは、戦争へ駆り出された若人が何を思い、生きてきたかを知ることができます。

立命館大学では、在学中に休学、退学して出征した3,000人の学生のうち、約1,000人が帰らぬ人となりました。展覧会では、1994年に行った「学徒出陣の実態調査」で判明した関連資料を紹介し、一方で生き残った学徒たちはどのように戦後を歩んだのか、当事者へのアンケート調査成果や、新収蔵資料も併せて展示します。

戦地に赴いた者、見送った者、残された者、それぞれの視点を通して「学徒出陣」を考えます。

## 関連企画

第19回メディア資料研究会：「林尹夫日記（学徒出陣）」

日時：2021年2月19日（金）

講師：田鍬 美紀氏（国際平和ミュージアム学芸員）

対面会場とオンラインで開催（詳しくはHPでご確認ください）

新型コロナウイルス感染症対策のため、ご来館の皆様にご協力をお願いいたします。  
※HPにおいて、新型コロナウイルス感染症防止対策について記載しておりますので、来館の際は、必ずご確認ください（入館をお断りする場合があります）。  
※新型コロナウイルス感染症防止の観点より、今後の展示・企画を急遽延期もしくは中止させていただきます可能性がございます  
ご来館の際は、HPで確認いただくか、事前にお問い合わせください。

【休館日】 日曜日・祝日の翌日（3月21日（日）は開館日）

【開館時間】 10:00～12:00 / 13:00～15:00

※新型コロナウイルス感染症対策のための短縮開館

【見学資料費】 大人400円、中高生300円、小学生200円

\*立命館で学ぶ人・働く人は無料です

\*先に1階で受付後、地下受付で見学資料費をお支払いください

【問い合わせ】 立命館大学国際平和ミュージアム TEL 075-465-8151 FAX 075-465-7899

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 <https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>



【交通案内】

市バス 12・15・50・51・52・55・59・M1、

JRバスにて「立命館大学前」下車、徒歩5分

市バス 204・205にて「わら天神前」下車、徒歩10分

※駐車場はありませんのでお車での来館はご遠慮ください